

糸半



教えます。



糸半プロジェクトとは

平成二十七年、燕市の「羽ばたけつばくろ応援事業」の採択を受け、生徒会本部が中心となり、「糸半プロジェクト」を立ち上げました。

「糸半プロジェクト」は、お世話になっていいる地域の方々への恩返しと、中学生にできることを考え行動し、小池中の良さを自分たちの姿で表現するという地域への発信とボランティア精神の向上を目的としたものです。

感染禍での活動も三年目となりました。地域の皆さんとの交流も少しずつできるようになってきました。地域の一員として、中学生の私たちにできることを構想しながら取り組んでいます。今年度の私たちの取組を糸半新聞にまとめ、地域に発信し、連携をより一層進めていきます。



※糸半プロジェクトの名前には、小池中生が縦糸、地域の方々が横糸となって、お互いの力を出し合って、絆を深めたいという願いが込められています。



The meaning of ITOHAN PROJECT?

CONTENTS 目次

糸半プロジェクトとは	2ページ
今年度の企画活動テーマ	3ページ
・地元企業とのコラボでベンチ制作	4ページ
・糸半講演会	5ページ
・糸半朝会	6ページ
・防災について	
災害場面を想定した道徳 3年生「さすけなぶる」	7ページ
全校道徳「防災クロスロード」	8ページ
地域合同防災訓練	9ページ
・福祉について	
認知症サポーター養成講座、地域の方とのワークショップ	10ページ
・糸半講演会	11ページ
・地域貢献活動紹介	12ページ

令和4年度企画活動テーマ

～私たちのまち「小池」の魅力発信～

これまで行ってきた地域貢献活動に加えて、次の2つの視点で新たな活動を創造しました。



地元企業とのコラボ でベンチ制作



地域との共通テーマ 「防災」と「福祉」 誰もが安心して住めるまちづくり

伝統の技と知恵が新たな業を生み出しているこの燕の象徴でもあるカトラリーをデザインとしたベンチを作成しました。私たちのアイデアを地元の企業から形にいただきました。

「防災」と「福祉」の視点から、私たちのまち「小池」が誰にとっても安心して住めるまちとなるように取り組んでいます。2年目の取組となる「福祉」は認知症について取り組んでいます。

私たちの地域貢献活動

「押し花のしおり」や「クリスマスリース」のプレゼント、地域クリーン作戦など



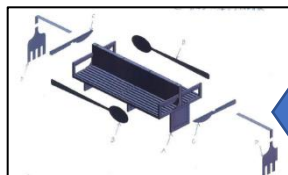
地元企業とのコラボでベンチ制作



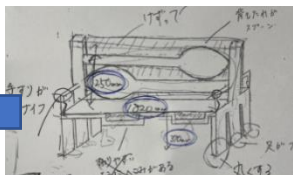
交通公園でベンチの高さなど現地調査



清掃ボランティア活動の様子



スケッチからのモデル



最初のデザインスケッチ

昨年度よりスタートしたプロジェクトは、燕の魅力を発信できるベンチを制作し、交通公園に設置するというものです。株式会社アベキン様の御協力により、私たちの思いをすてきなベンチとして完成していただきました。ベンチを設置していただく交通公園で、私たちができることは何かを考えて、秋に清掃ボランティア活動を行いました。春になったらベンチを交通公園に届けて設置します。



打合せを重ねて、最終デザインが決定

糸半講演会

十二月二十一日(水)

講師…株式会社 アベキン

取締役専務 阿部 正和様

演題…「地域への熱い思い、企業が果たす地域貢献活動」
ベンチ完成を記念に、企業として取り組まれている地域貢献
について御講演いただきました。

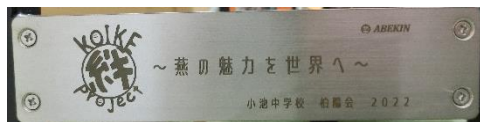
講演会に先立ち生徒会本部が、これまでのベンチ制作にかか
わる取組をプレゼンテーションを行いました。



講演会の様子



生徒会によるプレゼンテーションの様子



～燕の魅力の世界へ～

プレートに私たちの願いを刻んで取付け



完成したベンチ 春には交通公園に設置



カトラリーをデザインに

感想

○完成したベンチは、私の予想をはるかに超えていてとても驚きました。カトラリーがデザインされていて、燕市の魅力をみんなに知ってもらうことができると思った。お話を聞いて、私も地域貢献をしたいと思っただし、するために何ができるかを考えるきっかけになつて良かった。

○燕市の魅力が伝わる良いベンチだと感じた。身近にこんなすばらしい製品を作っている会社があることは燕市の誇りだと思つた。常に地域のことを考え、地域のために活動する姿がすてきだと思つた。私も地域や社会に貢献できるようにになりたい。



糸半朝会

七月十二日(火)

講師：ツバメロジス株式会社

執行役員 管理本部 本部長 瀨戸 明 様

演題：夢(目標)の実現にむけて「出逢いを大切に」

燕の企業の魅力の世界へと発信し、燕市の産業界の発展に寄与してこられた経験から御講話いただきました。目標実現にむけた手立てや、自ら人生を切り拓いていく上で大切にしたいことなどについて具体的に説明していただきました。

感想

○夢や目標を達成するため、具体的な要素を挙げ、小さなことでも毎日積み重ねて近づいていきたい。自分に前向きな言葉をかけ、ネガティブなことや誰かが嫌な気持ちになる言葉も言わないようにして、達成までの道の人として成長したい。他人とも積極的にかかわり、自分の価値観や見える世界をもっと良いものにしていきたい。

○人との出逢いを大切にされていることに共感できた。私も部活動の仲間や先生と出逢ったことで、自分の考えや感じ方が豊かになった。たくさんの出逢いと機会を大切にすることで人生が楽しくなると思えた。

地域との共通テーマ「防災」

災害場面を想定した道徳 3年生

協力：NPO 法人ふるさと未来創造堂

令和二年から毎年三年生は、災害場面を想定した道徳の授業で考えを深めています。地域合同防災訓練などの実体験を生かして、過去の災害時に実際に起きた事例への対処を話し合っています。又としてどうあるべきか、自分はどう行動できるのか、みんなで意見を出し合い、議論し、納得解や新たな考えや手段を導き出す活動を行っています。

さすけなぶる

東日本大震災による避難所（ビッグパレットふくしま）で実際に起きた事例にどう対処するかを考えました。個の命と人権を守ることをルールとして議論しました。



感想

- 自分の考えと違う考えが出て面白かった。想像力を膨らませて、たくさん意見を聞いてみたいと思った。
- 問題を解決しようと目の前のことだけを考えていてはダメだと分かった。
- 被災者支援に「正解」「不正解」はない。問題点は一人で考えるのではなく、全員で考えることが大切。命を守りながら支援をしていくことが大切だと分かった。
- 避難所の対応は、公平よりも公正が大事ということを知った。全員に平等な対応はなく、同じゴールにたどり着けるための人それぞれの対応が大事と思った。
- 人を助けられるのは人だけだと分かった。

災害場面を想定した道徳 全校道徳(2年目)

協力：NPO 法人ふるさと未来創造堂

防災クロスロード

今年も防災クロスロードを全校で行いました。災害時の様々な場面とそのときの立場を想定した二者択一の選択から、自分はどう行動するかを考え、全校で話し合いました。各班一台のクロームブックを使用して、それぞれの班の意見をステージ上のスクリーンに集約しながら、その判断と理由について共有し、考えを深めました。



こんな場面について考えました
その時の立場は、【市の職員】

避難所で生活はしていないが、毎日家族の分も含めて食事をもらいに来る家族がいる。スーパーやコンビニはまだ再開していない。今日は避難所に避難している人数分しか食料がない。
渡せないことを伝えて、あきらめてもらう？

Yes ・ **No** その他



YES or NO カードで個人の意思を表示、どうしても決められない場合は、その他として自分の考えを発表



班で話し合い、意見をまとめてクロームブックで送信



各班の判断と理由を全校で共有



感想

○いろいろな人の立場になって考えてみると、新しい発見があった。

○意見がぶつかることもあったが、みんなで意見を合わせるために議論することは楽しかったし、違う人の意見を聞いて良かった。

○誰かが動くのではなく、みんなが動くようにする。関係ないと思うことにも一歩踏み出してみたい。家族にも伝えてより多くの命を救いたい。

○本場に災害があったら、正確な判断ができなくなってしまうと思う。普段から家族とどう行動するか、どう判断するかを話し合っていこうと思った。

○判断は違っててもどの意見も納得できた。災害時はしっかり判断して行動したい。

10/1(土)地域合同防災訓練

平成 28 年スタート 7 年目の取組



今年度も感染禍のため、いつとき避難所までの避難訓練となりましたが、中学生も町内ごとの役割に従い、地域の一人員として活躍しています。十月一日は全校で防災について取り組んでいます。

感想

○避難するまでに危険な所が多いと思っただ。お年寄りが多かったので、避難時に声をかけたなり、助けたりするなど意識したい。

○高齢者の方が多いので、一軒一軒回って安否確認するのは大切だと思っただ。声をかけることで安心できる人もいると思っただ。安否確認をする時、近くに住んでいても名前を知らないことに気付いた。顔と名前が分かっただ方が災害時は助け合えると感じた。

小池中学校では3年間を通して、災害時に必要とされる様々な資質や能力を身に付けるために防災学習に取り組んでいます

1年生…災害弱者の避難支援

2年生…救急法講習

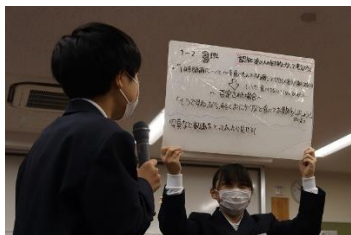
3年生…さすけながる、避難所運営ゲーム HUG

地域との共通テーマ「福祉」

地域包括支援センターおおまがりの皆様よりコーディネートしていただき、福祉教育に取り組んでいます。二年目の今年度は、一年生が認知症サポーター養成講座、二年生が認知症にかかわつて地域の方とワークショップを行いました。三年目の来年度は、三年生がこれまでの学びを発信する予定です。

一年生 認知症サポーター養成講座

燕市認知症地域支援推進員、燕市社会福祉協議会の皆様、講師の小林様よりお越しいただき、認知症サポーター養成講座を実施しました。正しい知識を学ぶとともに、認知症の方への理解と気持ちに寄り添う接し方について活発に話し合い考えまし



二年生 地域の方とのワークショップ

昨年学んだ認知症サポーター養成講座をベースに、認知症の方やその家族のお話を伺い、地域の一人として自分たちに何をできるかを考えました。地域の支え合い活動推進委員の皆さんとグループワークを行い、地域での活動を紹介していただきながら話し合いました。



一年生の感想

○認知症の方の心情が「こんなにつらいのか」ということが分かり、認知症に対する気持ちが変わりました。

○認知症の方は、本人が一番不安や不快な思いをしていることが分かりました。そのような思いをさせない接し方をしていきたい。

二年生の感想

○地域の方の話を聞いて、認知症への考えが変わりました。自分が認知症になっても、できないことを考えずに、今できることを考え行動していきたい。

○みんなで意見を出し終えたときに、地域の方から「安心できる」と言われました。これからを担っていくのは私たちなので、過ごしやすい町をつくらせていきたいと思ったし、深く実感しました。

糸半講演会

十一月十五日(火)

学区に住むベトナム人実習生の皆さんと交流

輝匠株式会社の皆様、ベトナム人協会、

燕市地域振興課

テーマ：おとなりさんは外国人

～多文化共生ってなんだろう～

地域にある外国人共同宿舎「かがやき」にお住まいのベトナム人実習生をお迎えして交流しました。これからの国際社会を生き抜き、切り拓いていく上で大切にしたいことについて考える機会となりました。今後、挨拶運動など一緒にできる活動を相談していきます。

感想

○分かり合えれば、不安も小さくなっていくし、信用できる関係にもなれる大切なことだと思った。これからは、自分から挨拶をしていこうと思う。挨拶は人をつなぐ役割があるので率先して行い、交流の機会があれば参加していきたい。

○家族と離れたら、言語の壁があつたりして大変だと思うが、燕市を選んで来てくれたことをうれしく感じた。日本や燕のよいところをもっと知ってほしい。



地域貢献活動紹介



押し花 しおり&コースタープレゼント

整美委員会では、植え替えて出た古い花を押し花にしました。しおりやコースターを作成して、お世話になった方にプレゼントしました。



藤の実もぎ作業

県指定天然記念物である八王子の白藤の保全活動を地域の方と一緒にしました。



クリスマスリースプレゼント

総合文化部で毎年制作しています。今年もお世話になった皆さんに届けました。



地域クリーン作戦

春と秋のクリーンデー燕に、多くの生徒が参加しました。



燕市立小池中学校

〒959-1265
新潟県燕市道金1095-1
ご意見、ご感想等は
jh-koike@g.tsubame-city.ed.jp

編集後記 120 字程度